

〒100-8118 東京都千代田区大手町 1-3-2
電気事業連合会 (FEPC)

2015年3月11日

件名: Supplementary Response to TAC Letter on THE SUITABILITY OF
MODELS FOR IKATA SITE PROBABILISTIC RISK ASSESSMENT

アポストラキス所長殿

2014年11月1日付けの技術諮問委員会 (TAC) の表記レターに関し、すでにFEPCより2015年1月9日付レターで回答をしているが、先のレターに加え、補足的なコメントを下記のとおりお伝えする。

推奨事項 1 および 2 について

これらの推奨事項には、基本的に同意する。なお、第2回TACで説明したPRAモデルの更新の概要に沿って、以下の通り補足的な説明を加える。

伊方3号機の安全審査の申請書類の中で使われているPRAモデルはアクシデントマネジメント (AM) 対策を含んでいないため、PSR-PRAモデルは、AM策を含むという点では今後フルスコープのPRAを開発していく上での技術的な拠り所として適切である。

一方、PSR-PRAモデルは開発・適用の時期が古く、評価手法の一部は時代遅れになっている。したがってPSR-PRAモデルを出発点とし、シビアアクシデント (SA) 対策等を反映し改善したPRAモデルを構築していく予定であり、そのモデルを今後の技術的な拠り所としていく。

推奨事項 3 について

推奨事項に同意する。なお、伊方3号機のPRAを改善するためのプロジェクトチームは、NRRCが組織するのではなく、電気事業連合会の「PRA活用推進タスクチーム」との連携を図りながら四国電力が組織しているものである。

推奨事項 4 について

推奨事項に同意する。

推奨事項 5 について

- 推奨事項に同意する。
- 今後、起因事象の細分化検討を実施する。また、起因事象の頻度、機器故障率については、伊方発電所の固有の運転データに基づき、ベイズ手法を用いて算出するための

検討を行う。

- 運転訓練センターに所属する運転経験豊富なインストラクターや伊方発電所の経験豊富な運転員から、PRAモデルの開発とレビューに関してすでに実質的な支援を受けており、今後もこれを継続・拡大していく。
- 四国電力は、評価ツールの構築をメーカーに委託するものの、実際の運用やツールのメンテナンス、改良等は、原子力保安研修所のリスク解析者が、伊方発電所のリスク評価担当者と連携しながら進めてきており、今後もこれを継続・拡大していく。

引き続きご支援賜りたい。

電気事業連合会

PRA活用推進タスクチーム

浦田茂（本人署名）